

百二十年館と杏彩館が竣工しました！

4月より、本学卒業生で建築家の妹島和代先生が設計された百二十年館と杏彩館が竣工しました。図書館には教室やラーニングcommons、杏彩館にはカフェテリア等が入っています。是非活用してください！

百二十年館

目白キャンパス内には明治から平成まで年代の異なる建物が建ち並んでおり、教室・研究室棟である「百二十年館」は、それら比較的大きな建物に囲まれた場所に位置しています。

主に次の施設・設備で構成。

- ◆人間社会学部の4つの学科の研究室
- ◆大中小の合計23の教室
- ◆ラーニング・commons
- ◆学生滞在スペース

建物上部には、新規建物共通のシンボルであるヴォールト状の屋根を設置。キャンパス内の動線や周囲の建物、隣接する住宅地への圧迫感を抑えるため、できる限り高さを抑えた建物とし、採光や風通しを良くするために、大きな吹き抜けの中庭（パティオ）を設けました。パティオは学生たちの憩いの場であるとともに、イベントスペースにもなり、学生たちの創意工夫が活かされます。

(大学HP抜粋)



▲1階の半分は半屋外のピロティ空間で、パティオと一体となって、地上3階地下1階の棟全体を見渡すことができます。ピロティ空間から階段で中庭に降りると、中庭を取り囲む形で地下1階の教室、学生滞在スペース、そして、2.3階の研究室へと学修空間のつながりを感じられます



▼キャンパスのほぼ中央に位置するこの棟「百二十年館」のピロティ空間は、目白通り側からの人の流れと不忍通り側からの人の流れを融合させる要となり、既存の学修棟への移動もスムーズに導きます。

(大学HP抜粋)



杏彩館

「杏彩館」は、施設内には、遠隔授業を行える Wi-Fi、プロジェクター設備があり、時には大人数のためのレクチャーやイベントなどの会場として、学生たちの創意工夫で様々な活用することができます。

また、不忍通りとキャンパスの内部では 2m 程度高低差があるため、1階・2階それぞれに入口を用意し、学生たちがスムーズに建物へアプローチできるような構成にしています。

新規建物共通のシンボルであるヴォールト状の屋根の下にはテラススペースが広がっています。昼食時には、ここにキッチンカーを導入することも検討しており、様々な用途で学生の可能性を広げるスペースとなっています。

なお、百二十年館・新学生棟の共通の特徴であるガラス張りの壁面は、災害時対応や新型コロナウイルスの影響を考慮し、自然換気できる窓を随所に設置しました。(大学 HP 抜粋)



住研スタッフより



須沢 葉 助手

2021年4月より

住研スタッフに加わりました。

学部・修士課程を新潟大学、博士課程を東京大学で学び、この度、住居学科の助手に着任しました。これまでは、主に住まいの復興について研究をしてきました。復興の現場では、どんなにいい設計したとしても、制度上の課題等により、本当に支援を必要とする人に適切にいき届かないことがあります。どのような仕組みがあれば上手くいくか?ということについて現地に足を運びながら考えてきました。小さな疑問や関心であったとしても、まずは自分なりに学び、考えてみるのが大事だと思っています。

学びを継続していくと、思いがけないところで人との出会いがあり、世界が広がります。住居学科は丁寧で熱心な先生ばかりで、そのような機会に恵まれた場所だと思います。私も身近な立場から学生の皆さんをサポートしていきますので、気軽に声をかけていただけたら嬉しいです。

topic
2